



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.46
阪神電車と六甲山
/玉起 彰三
2007年1月発行



六甲高山植物園

第46回テーマ： 阪神電車と六甲山

講演内容

- ①六甲山と私のかかわり
- ②阪神電鉄の六甲山開発の今昔
- ③高山植物園と牧野富太郎

実施日：平成19年1月20日（土）
午後1時～3時50分
場 所：六甲山YMCA
里見ホール



講師：玉起 彰三さん

プロフィール

1954年生まれ。1981年阪神鉄道（株）入社。以後、同社の経営する六甲高山植物園学芸員として現在に至る。著書『六甲山博物誌』（神戸新聞総合出版センター、1997年）

整備活動で枯れ木の伐採に着手しました

午前中の近畿自然歩道の整備活動には10名が参加しました。今回は、歩道沿いの枯れ木の伐採を行いました。今まで放置され密生して、歩道を暗くしていた枯れ木や枝を伐採すると、明るく歩きやすい歩道になりました。

作業をしていると暑さを感じるほどの暖かさで、雪もなく、1月とは思えない六甲山でした。

六甲山の研究を淡々と続ける玉起さん

市民セミナーには19名が参加。六甲高山植物園の玉起さんにお話をいただきました。

玉起さんは六甲山の麓で生まれ、田んぼや森で自然に親しみながら育ったそうです。高山植物を求めて日本各地の山に行ったり、六甲山の全ての登山道を踏破されたりと、研究熱心な玉起さん。ご自分の生い立ちの紹介から、六甲山の歴史などを親しみやすくお話していただきました。



交流会で記念撮影しました（真ん中 玉起さん）

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

阪神の六甲山経営の歴史を知った

明治以降の六甲山の歴史を紹介していただきました。阪神の六甲山の開発の歴史では、戦時中や、戦後の復興ぶり、阪神大震災のときの様子など、六甲山に関わってきた事業関係者だからこそ分かるお話を紹介していただきました。

また、高山植物園との関わりの深い、植物学者牧野富太郎博士についてもお話いただきました。

阪急・阪神の今後に注目

阪神電鉄は六甲山上の一大事業者で、昨年の阪急との統合以降どのように活動されるか、山上で市民活動を行う当会にとって大きな関心事です。

3月の市民セミナーで六甲摩耶ケーブルの今西社長にも六甲山経営のお話をお願いしています。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 金 俊ケイ さん

「ニコウキスゲが満開！来てよかったあ」、家族連れやなかよしグループの笑顔が印象に残っています。お花畑を見るとだれでもが童心に戻るひとは魚釣りと同じですね。はじめて山のてっぺんに来られたお客様は、楽しい遠足施設の充実ぶりにびっくりします。その運営にうちこんできた講師先生のわかり易い話は勉強になります。リスはよく見ますしペンギンの仲間のフクロウも隠れている山に、多くの人々が訪れますように。



【助成金をいただいている機関】

（財）大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、コベルコ環境保全基金
公益信託自然保護ボランティアファンド
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金